



## 夏休みをどう過ごすか

22日の終業式が過ぎれば、サマーセミナー、勉強合宿などがありますが、これから長い夏休みに入ります。各学年によって過ごし方に若干の違いはありますが、長期休業は有効に活用したいものです。「なんとなく夏休みが終わっていた」なんてことにならないように、意識して生活していただきたいと思います。

### 1年生

高校生になって初めての夏休み。一学期を駆け抜けて疲れを感じている人もいるかもしれませんが、この夏休みは今後を占ううえで大切な期間です。

まず宿題はできるだけ早く終わらせましょう。先送りするだけどんどん追い込まれてしまいますので、先手必勝で進めることが大事です。

そして、早すぎると思われるかもしれませんが、漠然とでいいので進路についても考えましょう。自分は文系なのか理系なのかから始まり、どういうことに興味があるのか（あるいは興味を持てそうか）、大学進学を考えるなら、どういう大学があるのか、と言ったことについて考えを巡らせるにはちょうどいい時期でもあります。



### 2年生

宿題に関しては1年生と同じことが言えますが、一步踏み込んだ行動が求められます。コロナの状況次第ではありますが、オープンキャンパスを利用して積極的に行動することも必要です。オープンキャンパスは事前予約制だったりオンラインだったり大学によって対応はさまざまですが、まずはホームページを見ることから始めましょう。

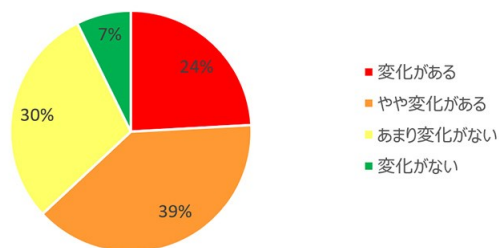
### 3年生

受験生にとって夏が重要なのは昔からいろいろなところで言われていることです。どのような入試形態で受験をするにしても、実力を伸ばすには夏に集中的に勉強することが重要です。質の高い学習はもちろんのことですが、知識面では量的なものも重要です。夏に仕入れた知識がものを言い始めるのは秋ごろ。逆にこの夏に何もしないと、それだけ後にズレていってしまいますので、とにかくまずは始めることです。

各学年共通して言えることは、生活習慣です。夏休みは特に生活が乱れがち。夜型になって昼頃に起きてくるような生活は絶対に避けましょう。生活が乱れないようにするコツの一つとしては、「食事の時間を固定する」です。日によって食事の時間が異なることがないように意識して行動しましょう。夏バテ防止といった保健関係の情報にも気を配りながら、暑い夏を学習面で「熱い夏」にしてみませんか？



夏休み中の生活リズムの変化



夏休みは生活リズムに変化が生じる人が3分の2にもなります。長い休みだからこそ、生活リズムの変化には注意しましょう。

## 大学を知る（第6回）・東京農業大学

「大学を知る」の第6回は、東京農業大学の田中教授にご協力いただき、農学の魅力に迫りたいと思います。

——東京農業大学全体をまずはご紹介いただけますでしょうか。

本学は地球と生命の〈未来〉を科学するわが国屈指の「農学・生命科学系」総合大学です。

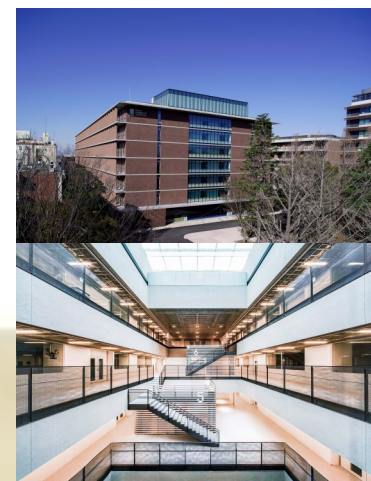
「稲のことは稲に聞け、農業のことは農民に聞け」は横井時敬初代学長の言葉です。その言葉通り、実際から学ぶ、フィールド科学を重視した実学教育の伝統が東京農大にはあります。都市に位置する世田谷キャンパス、田園地帯の厚木キャンパス、大自然のオホーツクキャンパスに加え、北は網走寒冷地農場（北海道網走市）から、南は宮古亜熱帯農場（沖縄県宮古島市）まで日本各地の拠点を利用し、6学部23学科152研究室で「生きる」を支える人材を育成しています。



東京農業大学生命科学部分子微生物学科・田中尚人教授 ご専門は生命情報科学、ゲノム微生物学

——他の学問でもありうることもありますが、「農学」というとある固定観念にとらわれることがあるように思えるのですが、まずは「農学」という学問分野がどのようなものなのかを教えてくださいませんか。

農学は人間の営みを支える食の大切さに関わる学問分野であるということは言うまでもありません。農学は我々人類にとって、最も身近な学問と言えます。農学は大きく自然科学と社会科学の2つに大別できますが、地球上での科学だけでなく天文学、人との関わりを大切に考えたコミュニケーションとマネジメント、さらに語学などの幅広い学問を学ぶ領域です。本学ではそのすべてが揃う『総合農学』という考えを大切にした教育・研究を展開しています。



世田谷キャンパスの4 学部15 学科87 研究室が集う“農大サイエンスポート”

——貴学には実に様々な学部学科がございますが、先生が所属されます「生命科学部」と「分子微生物学科」についてご紹介いただけますでしょうか。

ヒトは動物、植物、微生物といった生き物たちが持つ様々な能力を利用させてもらっていますが、現在、生命科学部では生き物たちの新たな能力を日々発見しています。そしてその生命現象をヒトの生活に活用するために能力の仕組みの理解や能力向上のための研究をしています。生命科学部には3学科ありますが、動物と植物を中心に研究を進めているのがバイオサイエンス学科、微生物を中心に研究を進めているのは分子微生物学科、生命現象の根底である化学を中心に研究を進めているのが分子生命化学科です。それぞれ主軸は違いますが3学科で研究をリンクさせながら互いに研究のための協力体制をとっています。

——先生のご専門についてお伺いしたいのですが。

様々な乳酸菌の機能について研究しています。農大には約5,000 株の乳酸菌を扱っている研究機関である微生物リソースセンターがあり、他



の先生方と協力して例えば発酵食品や植物の生育促進、免疫調節作用等様々な乳酸菌の機能開発をしています。それと同時にDNA（ゲノム）を解析することでその仕組みの理解を目指しています。他にも乳酸菌のみならず自然界での微生物の生態と役割を解析することもしています。例えば生分解性プラスチックの分解や土壌中の微生物と植物との共生などです。

——研究室のご様子、学生のご様子などを教えていただけますでしょうか。

培養した細菌を集める操作（集菌）の様子

研究室は大学院生が精力的に研究に取り組んでいて、その研究を3年生や4年生にも伝授しながら一緒に研究を進めています。先生は大学院生に技術や知識を伝授しています。このように、研究室が一体となって研究を進めていて、縦と横のつながりが強く、卒業してからもそのつながりは強いです。このつながりは他ではあまり聞かなく、農大の特徴でもあると思います。

——分子微生物学科を卒業した学生の進路はどのような方面が多いのでしょうか。

微生物の学科なので微生物に関わる企業への就職をイメージされると思いますが、確かに食品や環境、医薬の微生物検査もしくは総合職が多いものの、IT や化学、商社、公務員や教員等意外と幅広く、おおそ希望する業種にみなさん就いていると思います。大学院への進学者は3割くらいいます。院に進学すると就職は技術職や研究職が多いです。

——貴学では、特に分子微生物学科では、どのような学生に来てほしいとお考えでしょうか。

生物と少しの化学の知識を持ち、あらゆることに興味を持ち、よく情報収集し、そして情報を整理してまとめられる学生に来て欲しいです。

——ご協力、ありがとうございました。

今回のインタビューには、東京農業大学・鈴木智典先生にもご協力いただきました。



コンピュータによって細菌のゲノムデータを比較解析する様子

## 夢ナビプログラム

先月に登録していただいた「夢ナビプログラム」の講義シートが届きました。関心ワードを3つ入れると、それに関連した大学の講義シートが届くというもので、それを手掛かりに自分の進路探求につなげてもらいたいというものです。どのような講義シートがお手元に届いたのでしょうか。

あわせて、講義動画の方にも登録していただきましたが、視聴してみたいでしょうか。一つの講義が30分以内に抑えられ、3800もの講義がありますので、いろいろな学問内容を知ることができます。まだ登録が済んでいないのであれば、登録して視聴してみてください（講義動画の視聴には、大学の資料請求をする必要があります。有料のものもあるので、注意してください）。

学問を知るには、いろいろな方法があります。今は手軽に情報が入る時代。使わない手はないですね。



## 推薦等ガイダンス実施

期末試験最終日、3年生大進クラスを対象とした推薦等ガイダンスが体育館で実施されました。志望理由書の添削模試についてや、指定校推薦を希望する場合の心構えなどについて三河進路指導部長から説明が行われました。

推薦を受ける生徒に関しては、志望理由書添削模試を提出すると同時に、8月末に「推薦統一テスト」を受験する必要があります。それを経ない場合は推薦を受けることができませんので、注意してください。

また、3年生の生徒で学校型推薦を希望して「推薦入試可否審議願・校内推薦統一試験受験願」を提出した生徒は、今年度の指定校一覧を各担任の先生からもらってください。



## トピックス

- ◆ データ・サイエンス系の学部・学科が増える：各大学の説明会等に出席すると、多くの大学がデータ・サイエンス系の学部・学科を新設したり募集を拡大したりしていることがわかります。データ・サイエンスでは、統計、科学的方法、人工知能（AI）、データ分析など、複数の分野を組み合わせ、データから価値を引き出します。実用的な分析情報を引き出すために、Web、スマートフォン、顧客、センサーなどの情報源から収集されたデータを、さまざまなスキルを組み合わせ、分析するものです。社会ではより一層重要度が増しているデータ・サイエンス。今後の動きに注意が必要です。
- ◆ 外部英語検定入試がより一層進む：導入元年はそれほどでもなかった外部英語検定入試ですが、各大学でその導入が加速しています。今では実施しない大学が少なくなったのではないかと思います。1、2年生は早い段階で検定にチャレンジしておかないと、いざというときに困ることにもなりかねません。早め早めに準備を始めることが重要です。



「オタク」に憧れる人が多いということをとある記事で目にしました。たくさん知っていることで他者との違いを明確にして、就職の面接の際に有利に進めたいという気持ちがあるからなのだそうです。そのため、ひと昔前なら趣味の欄に「音楽鑑賞」「映画鑑賞」と書くことが多かったものが、今や恥ずかしくてなかなか書けないというのだそうです。つまり、そのことで「知らない」ことが明るみになることを恐れているわけです。その結果どうなるかというと、例えば映画だったら「1.5倍速（もしくはそれ以上）」で見るのだそうです。そうすることで一本当たりの視聴時間を短縮し、数を稼ぐということになるわけでしょうか。確かに動画サイトだと、10分以上の動画は最後まで見てもらえる確率が極端に下がるのだそうで、忙しい現代、ゆっくり映画を見ることすらなくなってきつつあるのかと思うとちょっと複雑です。

個人的なことを言えば、数を見ていることよりも、見て理解している、解釈できることの方がより重要なのではないかなという気がするわけですが、これは意見が分かれるのかもしれませんが。そういう私も動画サイトで動画を見ている時に、ついつい早送りしていることがたまに（結構？）あったりして……。